

社会システム; 各種予測

資料番号	対応章	資料タイトル	発行機関	概要	出典URL
予測—1	2	IPCC第4次評価報告書	IPCC(気候変動に関する政府間パネル)	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)において作成し、第27回総会にて受託された中級温暖化に関する総合報告書。	http://www.ipcc.ch/
		IPCC第4次評価報告書日本語版	環境省	IPCC第4次評価報告書を文部科学省・経済産業省・気象庁・環境省で翻訳したもの。	http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf
予測—2	2	The National Energy Modeling System: An Overview	DOE	米エネルギー情報局が実施しているエネルギー・モデリング・システム(NEMS)の結果をとりまとめたもの。	http://www.eia.doe.gov/oiaf/aeo/overview/#nems
		「Annual Energy Outlook Early Release Overview	DOE	米エネルギー省が毎年とりまとめているエネルギー年次概況。	http://www.eia.doe.gov/oiaf/aeo/overview.html
予測—3	2	GISS (Goddard Institute for Space Studies) Surface Temperature Analysis	NASA	米NASAゴダード宇宙科学研究所が行った表面温度解析の結果。	http://pubs.giss.nasa.gov/docs/1988/1988_Hansen_etal.pdf http://pubs.giss.nasa.gov/docs/2006/2006_Hansen_etal_1.pdf
予測—4	2	CCSR/NIES AGCM	東京大学気候システム研究センター(CCSR)	東京大学機構システム研究センター(CCSR)および国立環境研究所(NIES)が共同で開発した大気循環モデル(AGCM)。	http://157.82.240.168/~storage/index.htm
予測—5	2	CCSM3解説	電力中央研究所(CRIEPI)	NCAR(National Center for Atmospheric Research)が開発した気候モデルの解説。	http://criepi.denken.or.jp/result/event/forum/2007/maruyama/index.html
予測—6	2	Climate Changes of the Twentieth through Twenty-first Centuries Simulated by the MRI-CGCM2.3 (MRI-CGCM2.3でシミュレートされた20世紀から21世紀の気候変動)	気象研究所(MRI)	気象研究所気候モデルの最新版(MRI(Meteorological Research Institute)-CGCM(Coupled General Circulation Model)2.3)を用いて、20世紀の歴史的な気候変動と21世紀シナリオに関する実験を行ったもの。全球平均地上気温について、モデルは産業革命以前のレベルと比較して現在気候において0.5度Cの上昇を再現し、また20世紀に観測された気温トレンドの数十年規模の変化につ	気象研究所研究報告 第56巻 9-24頁 平成18年3月
予測—7	2	AIM/Enduse[Global]モデル	国立環境研究所	2009年から始まった環境省の地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ検討会に参画し、中長期ロードマップの策定に当たって専門的な知見を提供するとともに、知りうる最新の科学的な知見に基づいてモデル分析を実施し、3月26日の第5回全体検討会	http://www-iam.nies.go.jp/aim/prov/middle_report.htm
予測—8	2	AIM/Enduse[Japan]モデル	国立環境研究所	2009年から始まった環境省の地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ検討会に参画し、中長期ロードマップの策定に当たって専門的な知見を提供するとともに、知りうる最新の科学的な知見に基づいてモデル分析を実施し、3月26日の第5回全体検討会	http://www-iam.nies.go.jp/aim/prov/middle_report.htm
予測—9	2	AIM/CGE[Japan]モデル	国立環境研究所	2009年から始まった環境省の地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ検討会に参画し、中長期ロードマップの策定に当たって専門的な知見を提供するとともに、知りうる最新の科学的な知見に基づいてモデル分析を実施し、3月26日の第5回全体検討会	http://www-iam.nies.go.jp/aim/prov/middle_report.htm
分析—1	2	MARKAL (MARKet ALlocation)	IEA	MARKAL(国際エネルギー機関(IEA)における国際協力プロジェクト(ETSAP)で開発された多段階線形計画法モデル)の解説。	http://www.etsap.org/index.asp
		MARKALモデルによる地域エネルギー需給分析	慶應義塾大学	エネルギーシステムの最適化分析モデルMARKAL(Market Allocation)を用いて、自治体のエネルギーに関する中長期計画を策定するための具体的な手法を提案。	http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/report/mori/2007/b-21.html
分析—2	2	日本エネルギー経済研究所モデル	日本エネルギー経済研究所	日本エネルギー経済研究所のシンポジウムでの発表資料であり、日本エネルギー経済研究所モデルを含む各機関が発表しているモデル結果を比較検討し	http://eneken.ieej.or.jp/data/2653.pdf

社会システム;各種予測

分析—3	2	「長期エネルギー需給見通し」 のとりまとめ	資源エネルギー庁	2030年までのエネルギー技術の進展と導入のレベルにより現状固定ケース、努力継続ケース、最大導入ケースの3ケースにわけ、エネルギー需給の姿及びエネルギー起源CO2排出量について定量的に分析した結果をまとめたもの。	http://www.enecho.meti.go.jp/topics/080523.htm
分析—4	2	シミュレーション—2100年の地球温暖化	(財)地球環境産業技術研究機構	RITEが東京大学と連携して開発した地球温暖化対策評価モデル「DNE21」について、幾つかの地域別シミュレーションを行った結果の報告。	http://www.rite.or.jp/Japanese/kicho/kikaku/world/world04/01-30_31.pdf